

【主な質疑応答】2025年12月期第3四半期 決算発表説明会

日 時：2025年11月11日（火）16：00開始

登壇者：専務執行役員 経営企画本部長

沖中 直人

【全社】

Q. ROEの”E”に関する議論の進捗は？キャッシュアロケーションの考え方は？

A. 様々な選択肢を引き続き検討している状況。キャッシュアロケーションについては、これまでと変わらず、成長投資を最優先として考えている。

Q. 来期の利益をどのように考えているのか？

A. 原材料市況などの不透明感はあるが、マーケットの変化に対応すべく変革を進め、成長戦略を描き、増益を目指していきたい。

Q. 来期のコスト悪化はどのくらいの規模感と想定しているのか？

A. 来期を見通すことは難しいが、今年（国内約200億円、海外約150億円）と同程度の影響はあるだろうと見ている。

【日本】

Q. 10月からの価格改定はどのような状況か？

A. 価格改定は各チャネルで徐々に浸透している。開始したばかりであり状況は注視している。

Q. 今後の価格改定についての考え方は？

A. その時々 of 内外環境を見極めながら、臨機応変に冷静に対応していく。

Q. 第4四半期も原材料費・物流費が増加を見込んでいるが、どのような内容か？打ち手は？

A. コーヒー豆や茶葉を中心とした原材料市況の影響を受けており、来期についても影響を受ける可能性が高い。新商品投入やミックス改善、価格改定などを通じて対応していきたい。

【海外】

Q. APACについて、第4四半期から来年にかけてどう見ているか？

A. APACでは、ベトナムとタイの飲料事業での落ち込みが減益要因となったが、新商品などで需要喚起し、現時点で一定の手応えはある。ベトナムに関しては、市場成長率が過去ほど高くない中で、トレンド改善に向けた成長戦略を推進している。来年1月には組織体制も変更予定。

Q. オーストラリアでのRTD酒類事業の立ち上がりはどうか？

A. 順調に進捗している。売上は当初の計画を少し上回るピッチで、利益も計画どおりもしくはやや上回る水準での貢献を見込んでいる。

Q. 欧州は好調に見えるが、どう評価しているか？

A. 英国は非常に好調、フランスは砂糖税対応の各種施策を迅速に実行できるかが鍵、スペインはポートフォリオ変革と営業体制の見直しで底堅く推移。来年度以降も欧州が成長を推進してくれることを期待したい。